

取材日：令和3年9月10日

## 熱中症対策 事例集

業種：建設業（解体工事業）

本社所在地：大阪府大阪市

取材地：東京都新宿区（解体現場）

従業員数：50～99名

概要：解体工事、建築工事、土木工事

### 特に配慮している事項

設立時から解体工事のエキスパートとして、環境に配慮し、安全な施工を心掛け、これまで死亡災害ゼロの歴史を重ねてきました。熱中症対策においても常に作業員の健康状態に目を配り、設備や装備を充実させることでより安全な現場運営を行っています。

### 基本的な取り組み事項

- 作業現場に休憩場所を設置（建設事務所に加え、解体中のビル内へも設置）。
  - 休憩場所を複数箇所設置（日陰のエリアに椅子や扇風機を設置）。
  - 作業員に体調管理シートを記載させ、提出させることを徹底。
  - ヘルメットに日よけ用の布をつけることを義務化。

## 1. WBGT 値（暑さ指数）の活用

### (1) WBGT 値の実測

- WBGT 指数計にて測定し、朝礼時に周知している。

### (2) WBGT 基準値に基づく評価等

- WBGT 値に応じて休憩回数を増やしている。

## 2. 熱中症予防対策

### (1) 作業環境管理

#### ① WBGT 値の低減等

- スポットクーラー、業務用扇風機、大型送風機を設置している。
- 解体用の重機には冷房を完備している。

#### ② 休憩場所の整備等

- 休憩場所は建設事務所に加え、解体中のビル内にも設置している。  
また、作業場所付近の木陰に椅子や扇風機を設置して臨時休憩できるように整備している。

- 冷蔵庫や製氷機、ウォータークーラーを設置している。



業務用扇風機・スポットクーラーを設置



大型送風機を設置



解体中のビル内休憩場所

## (2) 作業管理

### ①作業時間の短縮等

- WBGT 値が高い場合は、休憩回数を増やしている。
  - 午前：3回、午後：3回（1回につき15分）

### ②水分及び塩分の摂取

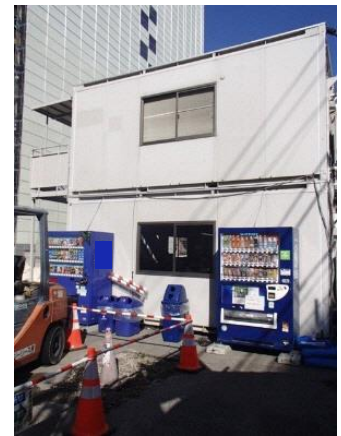
- スポーツドリンクの粉末を常備し、休憩場所にていつでも水道を利用して溶かして飲めるようにしている。
- 屋外に飲料自動販売機を設置している。
- スポーツドリンクを作業中に配布してまわり、水分・塩分を摂取できているか確認を行っている。

### ③服装等

- ファン付き作業服の着用を推奨している。
- ヘルメットに日よけ用の布をつけることを義務化している。

### ④作業中の巡視

- 職員が作業員へ声掛けを行い、顔色を確認している。



屋外にある建設事務所前に飲料自動販売機を設置

## (3) 健康管理

### ①日常の健康管理等

- 自身及び職員同士で体調を確認し、熱中症が疑われる場合はエアコンの効いた涼しい環境に連れていき、脇を冷やしてスポーツドリンクを摂取させ、状態によっては病院へ連れていく。
- 作業前・休憩後・作業後に体調の確認を行っている。

## (4) 労働衛生教育

- 1か月に1回、15分ほど実施している労働衛生教育で、現場監督が前年度の発生件数や対策について、書面にまとめた上で分かりやすい教育を行っている。

## (5) 管理体制の整備

- 声の掛け合いにより、業者の垣根を越えて話しやすい環境作りをしている。